

〈学術研究集会傍聴記〉

第29回国際・日本バイオメカニクス学会大会傍聴記

堀口 芳起 *

Yoshiki HORIGUCHI*

2023年7月30日から8月3日までの5日にわたり、福岡国際会議場にて第29回国際・日本バイオメカニクス学会大会が開催された。国際バイオメカニクス学会（ISB）は今年で発足50周年ということで、記念セレモニーや記念講演が催された。中でもISB発足50周年記念講演において、Nigg氏やHerzog氏といったバイオメカニクスの歴史を作ってきた方々の講演は非常に興味深かった。また、日本からは宮下先生がISBと日本バイオメカニクス学会とのこれまでの関わりをユーモアたっぷりに講演された。

順大バイメカ研究室からはオーラルセッション1件、ポスターセッション2件が発表された。また、野呂先生はJSB awardにノミネートされた。惜しくも優秀賞とはならなかったが、研究室のメンバーとして非常に誇りに思い、そして自分の研究意欲に対しても刺激を受けた。

Running, Walking, Footwear, Locomotionのテーマをメインにそれぞれの発表を聴講し、中でもFootwear関連の研究発表に関しては、自分の仕事である靴の機能開発のヒントになる内容が多くあった。また、Footwearのポスターセッションでオーストラリアの発表者の方に私の仕事の子供靴の開発だということを話したところ、「子供の足を研究して、靴づくりをしているメーカーは少ない。とても大事なことから頑張ってもらいたい」と激励をいただいた。自分の職業および研究が意義のあることだと

改めて感じさせられ、身が引き締まる思いであった。

シンポジウムではFootwear研究における代表的な研究者達によって、NIKE社の厚底ランニングシューズをはじめとするAdvanced Technology Footwearについて障害リスク、パフォーマンス向上等の視点で議論された。特に印象的だったのは、健康増進の目的とパフォーマンス向上の目的とを一緒に考えない方が良いということであった。言い換えれば、ランニングではケガのリスクの考え方も違う上に、要求特性も異なる。したがって、パフォーマンス向上のために開発された靴が健康増進に貢献するかといえばそうとも限らないということである。靴の開発者・研究者として、常に念頭に置いておきたいと感じた。

私は仕事の都合で初日の講演とオープニングセレモニーには参加せず、2日目から3日間参加した。しかしながら、2016年の日本バイオメカニクス学会以来の学会参加だったため、非常に感慨深いものがあった。研究活動からはしばらく離れていたため、専門用語も思い出すのに苦労した。改めて原点回帰し、もう一度基礎から勉強し直そうと思う。また、学部や修士の頃にお世話になった先生方や他大学の旧友と再会することができ、バイオメカニクス研究室に戻ってくることができて素直に嬉しかった。全日程参加することができなかったが、今後の研究活動に対するモチベーションアップに繋がった。このような素晴らしい学会に学内共同研究の助成のもと参加出来たこと、そして、日頃より熱心なご指導をしてくださる柳谷教授をはじめ本学の先生方に感謝の意を述べ、本傍聴記の結びとする。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程1年
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University